

Francois Auguste Ortman

フランソワ＝オーギュスト・オルトマン(1827～1884)



略 歴

1827年 パリに生まれ、ベルギーに出自を持つオルトマンは国際的にも高い評価を受けている画家である。

北方で絵画の研究に取り組んだのちにパリからフォンテーヌブローに移住して制作に励んだ画家である。またイタリアで学びルソーの弟子であった。

本作は、彼が研究してきた北方の風景画とバルビゾン派の作品との融合的な作品形態である。木々の枝葉や陰影の描き方がルソーの作品に類似しているが青みがかった画面の意識は北方の絵画の特徴がある。その特徴を持ってバルビゾンの風景画を描いている、オルトマンは北方の文脈を持ちながらバルビゾンの自然を描いたのである。

このバルビゾン村という小村は一つの明確な芸術運動の舞台であり、このような他の北方絵画という芸術要素を融合した絵画を誕生させる芸術同士の多様な面を持った存在あり。本作品はその具体的な結実として、バルビゾン派の作品について更なる特徴を我々に開花させてくれる逸品である。

作品名 バルビゾンの森の牛

種類 キャンパスに油彩

サイズ 51×46 cm

サイン有り 鑑定書「Vincent MARILLIER」